

# グループ学習に対する児童生徒の認識等の調査項目

2024 年 9 月 1 日作成 2025 年 4 月一部修正  
至学館大学 鈴木正則

## 1. 理論的背景

協同学習における尺度の代表的な研究として、長濱・安永・関田ら（2009）と中西・中島・大道ら（2014）がある。

長濱ら（2009）は、協同作業に対する認識を測定する尺度を開発した。この尺度は大学生を研究対象に検討されたものであり、学生の協同作業に対する認識を測定するために「協同効用」「個人志向」「互惠懸念」の3因子18項目から構成される。

中西ら（2014）は協同学習場面における学習者の社会的動機づけを測定する尺度を開発した。この尺度は大学生を研究対象にして検討されたものであり、学生の協同学習に対する社会的動機づけを測定するために「他者からの触発による動機づけ」「他者援助動機」「メンバーからの被評価動機」「メンバーからの被嫌悪回避動機」「グループに対する被評価動機」「他者からの知識影響に対する動機」の6因子27項目から構成される。

これら2つの尺度を用いることで、学習者は協同学習に対してどのような認識をもっているのか、また、協同学習に対する動機づけはどのようなものかを測定することができ、協同学習の導入法や指導法の工夫・改善や、協同学習の成果として期待される協同作業に関する認識の変化の測定に活用できる（長濱ら，2009，p.33）。しかし、これら2つの尺度は、どちらも大学講義における協同学習を念頭に置いた大学生向けのものであり、項目で記述されている用語は小中学生では難しいものがある。また、項目によってはニュアンスが似ているために小中学生では同じ項目と考えるものがある。さらに、項目数が多いため小中学生には負担である。そこで、長濱ら（2009）と中西ら（2014）の尺度を小中学生向けの表現に変更するとともに、項目を精選する必要がある。

## 2. 小中学生用協同的なグループ学習の尺度の枠組み

協同的なグループ学習を測定する視点として、「協同的なグループ学習に対する認識」（長濱ら，2009）と「協同的なグループ学習に対する動機づけ」（中西ら，2014）の2つの視点を設ける。さらに、協同的なグループ学習においては、分からない、つまりいたメンバーへの援助提供や援助要請が行われることが多いことから、援助要請・提供に関わる項目を新たに追加する。

「協同的なグループ学習に対する認識」の項目は、長濱ら（2009）の18項目のうち信頼性を考慮して選定し8項目とした。なお、「互惠懸念」の項目は学級経営に影響することが懸念されるため用いないことにした。「協同的なグループ学習に対する動機づけ」の項目は、中西ら（2014）の6因子から信頼性を考慮して1つずつ選定し6項目とした。どちらの項目も表現を小中学生用に改めた。また、「援助要請・提供」の項目は2項目を設け、合計9因子16項目から成る。

## 3. 回答方法

項目を質問紙にして、「まったくそう思わない：1」「あまりそう思わない：2」「どちらともいえない：3」「ややそう思う：4」「とてもそう思う：5」の5件法で回答を求める。

## 4. 採点方法

5件法の解答番号1～5を得点として換算する。合計得点が高い程グループ学習に対する意識が高いと判断できる。ただし、質問項目に負の要因の項目がある場合はその得点を減じて合計得点を算出する。

## 5. 実施学年

調査対象は小学生と中学生用であるが、小学校では3年生以上から可能であると思われる。ただし、3年生では教師が回答の仕方を丁寧に説明する必要があると思われる。

## 尺度項目（調査項目）

注）丸数字の項目が調査項目である。項目は通番にしてある。負の要因の項目（負項目）には＊を記している。負項目を入れたのは回答の信頼性を見るためである。なお、質問項目は指導状況や学級の実態に応じて加除修正すればよい。

### 1. 協同的なグループ学習に対する認識の項目

#### (1) 協同効用に関わる項目

- ① 難しい問題もグループのみんなとやればできる気がする
- ② グループのみんなでいろいろな意見を出し合うことはためになる
- ③ グループの他の人の意見を聞くことは自分のためになる
- ④ 一人でやるより、グループで協力した方がよい成果が得られる
- ⑤ グループのために自分が貢献することは楽しい

#### (2) 個人志向に関わる項目

- ⑥ グループでやるより一人でやる方がやりがいがある＊（負項目）
- ⑦ グループで一緒に活動すると自分の思うようにできない＊（負項目）
- ⑧ グループでやると必ずしっかりやらない人がでてくる＊（負項目）

### 2. グループ学習に取り組む動機の項目

#### (1) 他者からの触発による動機付け

- ⑨ グループのメンバーが頑張っている姿をみて自分も頑張ろうと思う

#### (2) 他者援助動機

- ⑩ グループの人が困っていたら助けたいと思う

#### (3) メンバーからの被評価動機

- ⑪ グループのメンバーから頼られたいと思う

#### (4) メンバーからの被嫌悪回避動機

- ⑫ メンバーに嫌われたくないから協力しようと思う＊（負項目）

#### (5) グループに対する被評価動機

- ⑬ グループとしてよい成果を出したいからがんばりたいと思う

#### (6) 他者からの知識影響に対する動機

- ⑭ グループの話し合いで自分と違う考えを知ることができるからがんばりたいと思う

### 3. 援助要請・提供の意識

- ⑮ グループの仲間が教えてくれると、私はうれしい気持ちになる
- ⑯ わからない子が私の説明を聞いてわかってくれると、うれしい気持ちになる

### <採点方法の例>

1, 2, 3 の項目別に採点して傾向をみる場合や 1～3 の合計得点を算出して総括的にみる場合がある。合計得点を出す場合、負項目（問題番号⑥, ⑦, ⑧, ⑫）の得点を減ずる。

総括得点＝（正項目の合計点）－（負項目の合計点）

例えば、上の①～⑯の場合の満点は（正項目 12×5 点）－（負項目 4×1 点）＝56 点である。

### 引用文献

長濱文与・安永悟・関田一彦・甲原定房（2009）. 協同作業認識尺度の開発. 教育心理学研究, 57, 24-37.

中西良文・中島誠・大道一弘・益川優子・守山紗弥加・下村智子・長濱文与・中山留美子（2014）. 協同学習場面における社会的動機づけ尺度作成の試み. 三重大学教育学部研究紀要: 自然科学・人文科学・社会科学・教育科学, 65, 335-341.